

「 ファイアジュニアとして 」

大阪府 河南町立かなん桜小学校 6年 ^{さとう}佐藤 ^{あやか}綾香

私が小学一年生の時、河南町にファイアチャイルドが結成され、祖父の勧めもあり入隊しました。まだ一年生だったので敬礼や行進の練習、煙体験、消火器型放水を使用しての消火の練習等、初めて経験する事ばかりで訓練の日は楽しかったです。消火器の使用方法は「ピノキオ」と教わり、ピはピンを抜く、ノはノズルを持つ、キはキョリをおく、オは押すと分かりやすく学びました。三年生まで、これらの事を繰り返し訓練させてもらいました。四年生からはファイアジュニアに入隊し、チャイルド時代とは違い、より人命救助の観点から色々と勉強させてもらっています。AEDの使用法、ダムの見学、実際の消防車で使用するホースからの消火訓練等勉強させてもらいました。河南町の防災訓練日では、バケツリレーでの消火訓練や地震体験車での地震体験もしました。

河南町は山々に接した豊かな穏やかな良い町ですが、山が近いという事は土砂災害の危険性も高く、町のハザードマップには土砂災害危険区域も何ヶ所も記されてあります。実際に河南町でも、昭和五十七年に四名の方が土砂災害で亡くなられている事を祖父から聞きました。自分の住んでいる町でも、土砂災害で命を失っている方がいる事にショックを受けました。このような悲しい出来事が二度と起こらない様に、砂防壁の整備等河南町では行われています。しかし近年は自然環境の変化と共に自然災害も増えています。一昔前では考えられない様な事態も起きています。砂防壁の整備も百パーセント安心ではありません。このような事から日常的に災害時に備えて、避難訓練を実施する事が大切だと思います。自分の命は自分で守るのが大切です。

7月の熊本県豪雨災害では、消防団の日常的な訓練のおかげで、人的災害がゼロだった地域もあります。ある消防団員の人のお話では、「いつもと何か様子が違う。山から小石が転がって来ている。」との事で、土砂災害の危険のある家を一軒一軒回り避難を促し、その全世帯が避難所に移動した十分後に、土砂災害が発生したとの事でした。こうした消防団員の行動のおかげで、数名の方の命が救われた事に私はすごく感動しました。

何もない日常では、防災訓練は「また同じことか……」とつまらない様に思いますが、こうした訓練の積み重ねが自然と体に浸透し、いざ災害が起きた時にすぐに対応できる様になるのだと思います。よく母が「命と時間はお金では買えない」と言っていますが、失われた命はいくらお金を払っても戻って来ません。亡くなられた方はこの世に未練が残るでしょうし、残された方も悲しみに襲われます。災害は、日常生活を一変してしまいます。災害が起きない様に町を整備する事が大切ですが、それでも災害が起きてしまった時に迅速に対応できる体制を整える事も大切です。その一つとして、ファイアジュニアの存在意義があると思います。一人一人が命の大切さや人命救助の方法を学ぶ事ができ、災害時に対応できるノウハウが身に付きます。これからもファイアジュニアの活動を通して、少しでも人の役に立てる人材になりたいと思います。